

GIFU PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS



らいちよう

No. 151

2024.11.22 発行

(公社) 岐阜県理学療法士会 広報誌 <https://gifu-pt.jp/>



目次

巻頭言..... 2～3
学会報告..... 4～5
活動報告..... 6～8

倫理委員会..... 9
会員の声..... 10

第40回 東海北陸理学療法学会

— 親子で参加!?! —

介護老人保健施設 喜の里
名和 敏晃

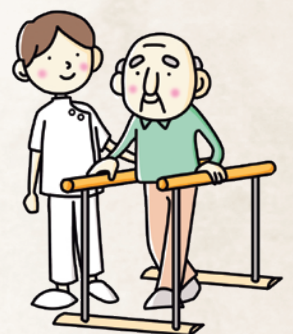
まずは、第40回東海北陸理学療法学会が9/7、9/8に開催され、盛会のうちに終わられましたことをお慶び申し上げます。舟木一夫大会長をはじめ、準備に関わられた士会員の皆様、長期間に渡り、いろいろご苦労なさりながら大会をおつくりになられたと思います。大変お疲れ様でございました。

皆さん、大会ポスターに岐阜県は見つかりましたでしょうか？スタンプラリーは全て集めることが出来ましたか？大会オリジナルグッズや岐阜の名産をお土産に出来ました？教育セミナー後の交流会に参加してみましたか？すごく身近に講師の先生を感じられたはずです。子育て世代の方にも優しくキッズルームが設けてあり、なんと、参加者にはコーヒーまで無料でした！（笑）

さて、私はこの大会に、何の縁か親子で参加することになったわけではありますが…（まさか、こんな日が来るとは…）。少しだけ、昔話をさせて下さい。思い返せば息子は21年前、私が23歳の時に誕生しました。それは、私がまだまだ新米の理学療法士だった時の事です。臨床実習で経験した老健に魅力を感じ、福祉分野で働き始めましたが、右も左もわからず、研修があれば分野関係なしに参加してみ

て、新しい知識を得ることで精いっぱいでした。また、目の前の患者さんを何とか治せないものか、試行錯誤し悩んでもいた頃でした。息子とはいうと、小学5年生で剣道をはじめ、中学では東海大会まで進み、高校では寮に入って一心不乱に剣道に打ち込んでいました。それまであまり勉強もしたことの無い、そんな彼が急に理学療法士になりたいと言ったのが高校3年生の時、驚いたものです。父として、理学療法士として、息子が剣道に精を出す傍ら、怪我の予防、怪我をした際のサポートをしてきました。同僚の選手が怪我や故障に悩んでいるときにも相談に乗りました。それが、起爆剤だったようです。父の背中をみて育ててくれたのかなと、嬉しいのか心配なのか、そんな気持ちになったものです。でも、折角やるなら、上を目指せと、短大に入学して以来、毎年県学会には連れていき、今回は東海北陸にも連れていった次第です。

理学療法士は、面白くやりがいのある仕事です。私はこの仕事を選択したことに誇りを持っています。しかし、最近は理学療法士の数も増え、



飽和状態と言われる中で、どれほどの理学療法士がこの職業に魅力を感じ、そして仕事ができているのでしょうか。日々、研鑽することなく、漫然と日々の業務をこなすだけにはなっていないのでしょうか。学術大会や研修会、研究活動などは、そんな日々の活を入れてくれる絶好の機会だと思っています。息子には、理学療法のやりがいや楽しさを感じてもらうためにも、諸先輩方の発表する姿、講師の先生方が研究に打ち込む姿を見ること、それが一人前の理学療法士になるべく第1歩だと伝えているところです。

ところで、先ほど「背中をみて育ててくれた」と書きましたが、実際にこのような昔の職人氣質は現代には当てはまりません。私が指導しているスポーツ少年団の子らも、若い理学療法士の先生方にもそうです。今や背中で語り伝えるのは難しいのでしょうか。「技術は手から手へ」育成には「入念な教育、指導」が必要なのです。「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」これは山本五十六連合艦隊司令長官の名言ですが、仕事も剣道でも指導する際には心掛けるようにしています。自らが出来ないことを指導することはできません。出来もしないことを口で言っても説得力がありません。十分とは言い難いですが、まず、技術(やり方)を見せ、説明し、やらせてみせて、できれば褒める。それを臨床に活かし利用者さん、患者さんに還元する。これは、

リハを頑張っている利用者さん、患者さんにも一緒です。これこそ、理学療法士の本質であるように思います。

長くなってしまいましたが、今大会を通じて、とても多くの事を学ばせていただきました。我々理学療法士は、まだまだ発展途上です。大勢の理学療法士が誕生している中で、皆が治療できる技術を持った職人として成長していく必要があるのでしょうか。そして、一致団結し、プロフェッショナル集団として共に成長していかなければならないのだと思います。

そんなことを感じさせた学術大会でした。

将来、息子もその歯車の一つになれば…。そして、いつの日か、その原動力に…。

親ごころです。





第40回東海北陸理学療法学会 大会長 舟木 一夫

2024年9月7日・8日の2日間に亘り、岐阜じゅうろくプラザにおいて第40回東海北陸理学療法学会を開催いたしました。本学会大会は、理学療法士の仕事の魅力・やりがいを共有、発見したいという思いから「空の青さを知る」をテーマとして掲げました。ありがたいことに、大会当日の岐阜は快晴に恵まれ、大会テーマの空の青さを後押ししてくれました。

総参加者数は約2,481名(対面参加790人、オンデマンド参加1691人)に達し、盛会裡に学会大会をつつがなく終了することができました。岐阜県理学療法士会会員のみなさんの暖かい御支援と御協力の賜物と感謝しています。学会二日間で延べ170名以上の会員、学生さんに運営協力をしていただきました。

参加者からは「岐阜県士会の結束の素晴らしさ、雰囲気の良いを強く感じました」「段取りよくホスピタリティのある運営でした」「岐阜県士会員の皆様、また学生ボランティアの皆さんもキビキビした対応で団結を感じました」など嬉しいお言葉もいただきました。本当にありがとうございました。

本学会大会は、大会長基調講演、特別講演、教育セミナー7講演、モーニングセミナー4講演、4つのシンポジウム、一般口述発表95題(対面発表32題、オンデマンド発表63題)、ポスター発表28題(オンデマンド発表)等を企画しました。そして、これら全てオンデマンド配信も行い、時間や場所を気にすることなく参加ができるようにしました。交流会企画として、教育セミナー講師との交流会、同じ思いや悩みを持った人同士が集まる交流会、同窓会応援企画を行い、参加者同士で交流ができる学会大会にな

ご協力ありがとうございました



りました。人と人がつながることによって、理学療法士の魅力・やりがいをさらに共有・発見できたものと思っております。また、岐阜で起業されている理学療法士からの協賛金で、スタッフ用ポロシャツ、参加者用うちわ、ペットボトル水などを作りました。スタッフ用ポロシャツは軽装で業務を行う「クールビズ」の取り組みで、うちわと水は暑い岐阜に来ていただいた参加者へのおもてなしとして使用しました。

今回の学術大会は学会準備委員の皆さんの創造力のお陰で、楽しい企画が生まれ、岐阜らしい素敵な学術大会が開催できたと思っています。創造力は遊び心から生まれます。これからも、岐阜県士会の結束の素晴らしさ、雰囲気の良い、遊び心を士会活動に生かされるよう願っています。

本学術大会の企画・準備などにご指導・ご協力下さいました関係者各位、ならびに本大会の開催・運

営に快くご協賛頂きました企業・団体各位に心より厚く御礼を申し上げます。



キッズタウンぎふ2024 活動報告



保護者へのマッサージ体験



車椅子・ポッチャ体験



令和6年8月24日(土)と25日(日)の2日間、岐阜新聞社主催の子ども向けお仕事体験イベント「キッズタウンぎふ2024」に参加しました。岐阜県理学療法士会は、年長から小学6年生までの児童を対象に、さまざまな仕事を体験できる場として、このイベントに例年参加しております。

今回のイベントでは、3つの活動を行いました。まず1つ目は、子どもたちにケーシーを着用してもらい理学療法士になりきって直伝のマッサージを保護者に直接実施してもらい、最後に肩もみ券をお土産としてお渡ししました。2つ目は、「足が速くなるためのストレッチ」と題して、理学療法士がお手本を示しながら、子どもたち自身が下肢のストレッチを行いました。最後に、障がい者スポーツ用の車椅子(テニス)の乗車体験や、パラリンピック公式種目であるポッチャの体験を実施しました。マッサージを受けた保護者の喜ぶ顔を見て子どもたちも充実した表情を見せてくれました。障がい者スポーツ用車いすやポッチャは子どもにも大人にも人気があり、関心の高さが伺えました。

今回のイベントでは、「理学療法士の仕事に興味を持った」「走るのが速くなるといいな」「ポッチャはとても楽しかった」などの感想が寄せられ、ほぼ全ての予約枠が埋まり総勢140名の子どもたちが参加いただき大盛況なイベントとなりました。子どもたちだけでなく、理学療法士同士の交流も深まり、顔の見える関係づくりができた貴重な時間となりました。今後もイベントを通じて子どもたちに理学療法士という職業について興味を持ってもらえるよう、活動を続けていきたいです。

職能局 地域職域連携推進部
文責：橋添健也

岐阜県理学療法士会 × 岐阜聖徳学園大学がお届けする

運んで、乗せて、測る “食べて健康”食育ワークショップ

日時：9月15日(日) 場所：イオンモール各務原インター



INBODYと食育SATシステムを体験

総勢90名の方にご参加いただき、大変活発な体験会となりました。
INBODYで水分量、筋肉量、脂肪量などを測定し理学療法士が運動指導を行いました。

「鍛えているつもりでも足りていなかった。上半身を中心に筋トレメニューを組み直そうと思った」、「思ったより体脂肪率が高かった。もうちょっと頑張らねば」など、生活を振り返るきっかけになれたようでした。



▲ INBODYを計測する参加者



▲ 食育SATシステムの食品サンプルと、日々の食生活を見直す参加者

食育SATシステム(体験型栄養指導)で食事バランスを点数化し、岐阜聖徳学園大学の講師が栄養指導を行いました。「おススメされたブロッコリーをイオンで買ってから帰ります」と楽しんでいただけたようでした。

(文 地域職域連携推進部/若山帝祈)



▲ セルフケアを学ぶ参加者

自宅で出来るトレーニング法を教わり、「続けられるかが問題ね」と話していた参加者のお二人。簡単な方法を選んでお教えしたので、ぜひ毎日行ってほしいですね。

(筆者談)

イオンモールウォーキングイベント イオンモールのSDGsフェス

日時：9/16(月・祝)10:00~16:00

敬老の日にイオンモール土岐にて行政、テナントと共に健康イベントを開催しました。今回は以前のような定期開催ではなく単発開催でしたが、祝日であったこともあり80名を超える多くの方にご来場していただき健康寿命について考える一助となったと思います。

InbodyやAYUMI-EYE、運動検査を導入し、目で見てわかる客観的評価もとても好評でした。

行政と協力しシルバーリハビリ体操や連続開催の時にも行っていたイオンモール内一斉ウォーキングも実施し、みなさんに楽しんでご参加いただきました。

日々の病院内や施設内とはまた違った働き方で参加者の方にも理学療法士に向けて感謝や応援のお声をかけていただき、私たちスタッフにとっても実りあるよい経験となりました。

来月にはこのイオンモールウォーキングの活動を通して出会った参加者の方と力を合わせて市町村スポーツフェスティバルに岐阜県理学療法士会としてのスタッフ参加も決まりました。繋がったご縁に感謝しながら地域の皆様のお力になれるよう、私たち理学療法士のことを多くの方に知っていただけるように努めてまいります。

文責 サニーサイドホスピタル 井出早紀子



理学療法士の 信用、信頼



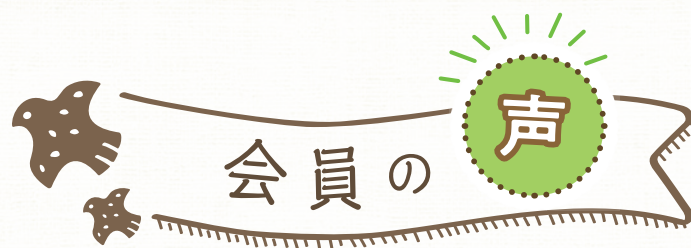
信用という言葉には「確かなものと信じて受け入れること」という意味があります。「あの人は信用できる」などと言います。それに対して、信頼とは「頼りになると信じること」という意味があります。「信頼できる先生」と言われたいものです。

「信用」とは、これまでの行いや実績、成果から生まれるもの。「信頼」とは、人柄や考え方、言動などから生まれるものです。実績を積み重ねることによって相手に信じてもらえるようになって信頼が生まれます。

理学療法士の資格を持っていることで、患者さん、利用者さん、職場のスタッフから「信用」されます。資格は目に見える信用力です。しかし、ニュースや新聞を賑わすような不祥事は理学療法士全体の信用を落とすことに繋がります。そうならないよう、日頃から人の道から外れない、倫理の意識を保ちましょう。「理学療法士」って大丈夫なの？信用できるの？と言われないように…。

倫理委員会 舟木一夫





趣味がもたらすメンタルの力と理学療法

羽島市民病院
赤座 和樹

現在、私は地域包括ケア病棟で勤務しています。地域包括ケア病棟では、住み慣れた所でその人らしい生活が送られる様なサポートをすることが求められています。私にとって、野球観戦は趣味だけでなく患者さんのメンタルを支える大きな要素となっています。近頃、メジャーリーグで活躍されている大谷翔平選手の話もあり、野球に関心を持つ方は多くいらっしゃると思います。この度、らいちょうの「会員の声」のお話を頂きましたので拙い文章で恐縮ですが、最後までお読みいただければ幸いです。

患者さんが退院するためには必要なゴールがあります。それを目指して治療を進める中で患者さんのモチベーションは予後を大きく左右します。そのため、患者さんのモチベーションを保ち継続してリハビリに取り組んで頂けるように介入するのも理学療法士の役割であると感じます。その様な中、私の趣味である野球観戦を通じて得たエピソードが印象に残っています。

80代男性の患者さんのリハビリをさせて頂く機会がありました。コロナ禍で面会が制限されていたことで孤独感があり、気持ちが落ち込んでいるようでした。ベッド上で生活することが多く、リハビリへの意欲も低下していました。リハビリ中の雑談で患者さんは、地元の野球チームの熱烈なファンで若い頃には草野球をされていた事を知りました。それ以降、リハビリの時間に前日の試合の結果をお伝えしていると、徐々に表情も明るくなってきた様に感じました。デーゲームのある週末に、ホールまで中継を見に行くことを提案すると喜んでおりリハビリを楽しみにされるようになりました。患者さんの、昔はこんなプレーをしていたと、両手を使って笑顔で話されている姿が印象的でした。次第にリハビリ以外の時間にも車椅子に移乗している姿を多く見かけるようになり、リハビリにも意欲的に取り組んでいただけるようになりました。

この経験を通じて、スポーツ観戦が患者さんの心を支える力となりリハビリのモチベーションを高めることが出来たのだと実感しました。野球観戦は私にとって趣味でありつつ、リフレッシュの場でもあります。この様な時間を持つ事で、自らの仕事に対するモチベーションを維持し患者さんに対して前向きな姿勢で向き合う事ができています。趣味を通じて、患者さんの心の支えとなる事ができるのも理学療法士としての大きな喜びです。今後も患者さんそれぞれの心のよりどころを見つけ心のケアにも努めていきたいと思っています。



令和6年度 賛助会員

会社名・施設名	電話番号
有限会社 加納ビジネス 〒500-8456 岐阜県岐阜市加納大黒町2-32	TEL 058-273-3007(代)
有限会社 中部義肢 〒486-0911 愛知県春日井市西高山町3丁目16-12	TEL 0568-34-7143
岐阜保健大学 〒500-8281 岐阜県岐阜市東鶯2丁目92番地	TEL 058-274-5001
東名ブレース株式会社 〒489-0979 愛知県瀬戸市坊金町271	TEL 0561-85-7355
株式会社 松本義肢製作所 〒485-0805 愛知県小牧市大字林210-3	TEL 0568-47-1701
学校法人誠広学園 平成医療短期大学 〒501-1131 岐阜県岐阜市黒野180	TEL 058-234-3324
中部学院大学 〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘2丁目1番地	TEL 0575-24-2211
株式会社 ケア 〒502-0848 岐阜県岐阜市早田本町1丁目9番地	TEL 058-233-7981
株式会社 Lee製作室 〒910-0374 福井県坂井市丸岡町北横地40-9	TEL 0776-50-1105
有限会社 であい工房 〒738-0034 広島県廿日市市宮内3300	TEL 0829-39-0041
昭和貿易株式会社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目18番27号	TEL 06-6441-5612
株式会社 コーヤシステムデザイン 〒194-0212 東京都町田市小山町142-1	TEL 042-798-4644

